



東京の産業と教育

No. 166

会 の 目 的

本会は産業界、教育界及び行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

予測困難な時代の専門高校での学び方

翼学院グループ代表 情報経営イノベーション専門職大学客員教授 公認心理師

芦澤 唯志



AIの急速な進化により「人工知能の性能がいずれ人類の知能を上回る」という仮説が主張されています。以前からスーパーコンピュータの演算性能の高さは、世界ランキングとともに知られていました。それに加えて人間の指示を受けずに作業を遂行できる「自律性」と学習や経験に基づき能力を高めていく「適応性」を兼ね備えたAIの進化が、反復継続的な作業だけでなく、様々な職種で雇用を奪うと懸念する声もあります。このようなテクノロジーの急速な進歩に加えて、新型コロナウイルス感染症蔓延などの不測の事態による社会情勢の変化、情報化社会を背景とする価値観の多様化などの要素が絡まり合うこれからの時代は、一義的に社会課題の解決策を導き出すことが一層困難となることでしょう。

このような時代に私たちは「何のために、何を、どのように」学べば良いのでしょうか。「何のため」という学びの目的について私は自他の幸福を実現するためと考えます。利他主義を道徳として教育しても、多様な価値観に触れてきた子どもたちには受け入れ難いと考えます。しかし自分自身の利益だけ追求しても幸せとすることは難しいことはSDG'sを持ち出すまでもなく明かです。人間は社会的動物なのですから、他者から必要とされることや他者の幸せに貢献することは自尊感情に大きく影響します。

次に「何を学ぶか」についてですが、予測困難な時代では丸暗記や答えが始めにありきの学習だけを続けていても、自律的に学びを深めていくAIに負けてしまいます。例えば経済活動をしているのは人間なのですから、既存の経済理論と心理学と融合させて考察することでより深く市場や消費行動を理解することができます。また自身の生きる基軸、自他の課題解決で困ったときに立ち返る自身の哲学を作り上げることは学びの重要な役割です。だから「どのように」学ぶかについては、「我が事」として学ぶことが大切です。個人の苦手な分野にはAIが知恵や手を貸してくれる時代だから、人間が平均的である必要はありません。「苦手なことと折り合いをつけて、得意なことで勝負する」—専門高校に進学して興味関心のある専門性を深めていくことは「得意なことで勝負する」ために有意義であると私は考えます。しかし実際

にたくさんの小中学生の保護者と関わっていると、残念ながら専門高校の大学進学率を巡ってのネガティブな印象を聞く機会が多くあります。大学進学だけが高校で学ぶ目的ではないのですが、令和5年3月卒業の全国の高校生の大学進学率が普通科で70.3%（文部科学省『令和5年度学校基本統計（学校基本調査報告書）』であることを踏まえると、保護者の印象については分からないでもありません。しかし専門高校卒業生のうち25.2%が大学・短大等に進学していること（私が客員教授を務める専門職大学も専門高校卒業生の進路の選択肢の一つと考えられます）、様々な専門高校の授業を参観して垣間見ることができる熱心な生徒の姿を伝えると、保護者の意識にも変化が見られます。生徒が自身の得意分野について専門性を深めつつ、社会との関わり方を考えていく。関心が高い分野を通じるからこそ見えてくる社会課題があり、絵空事ではない社会の幸せを考えることができると思うのです。

「學びて思はざれば則ち罔し。思ひて學ばざれば則ち殆し」

中学3年の国語の教科書で触れたことがある論語を引用して都立総合高校の1年生への講演で「学ぶ意味」について問いかけたとき、1時間半の長丁場にも関わらず目を輝かせ集中して受講する高校生の姿が見られました。その姿に『専門高校における民間OB等活用事業』の可能性を感じることができました。受講した総合高校1年生の感想を引用します。

「正解がない社会であるからこそ、自分自身で考えることが重要になっていく。知識だけではなく課題を解決するための力を身に付けることを意識することで、できることが広がると感じました。」「心理学では特徴は個人間差ではなく、個人内差と聞いて驚きました。強みはみんなに驚かれたり、感心されたりするような力のことだと思っていました。だから私には強みがないと思っていたのですが、先生の体験談のおかげで、自分にも強みがあるのではないかと、思えて希望が持てました。」産業人が教員と連携を図って、専門高校生に「自らのキャリアを主体的に考える機会」を提供することで、生徒にも専門高校にもそして産業人にも様々な可能性が広がっていくことを日々実感しています。



【実践報告】

「岩倉スピリットの深化 ～コンヴィヴィアル・スクールが目指すもの～」

学校法人明昭学園 岩倉高等学校 学年主任 鬼頭 修平

1 はじめに

本校は、今年で127年目を迎える伝統ある私立高校です。「正心第一」の校訓のもと、多様な生徒一人ひとりの個性を大切に、面倒見の良さ与人間的つながりの深さを感じられる温かい雰囲気が特徴です。生徒たちはこの校風の中で素直に伸び伸びとたくましく成長し、楽しい学校生活を送っています。

3年後の2027年に創立130周年を迎えます。それを契機として、「コンヴィヴィアル・スクール」を目指しています。コンヴィヴィアル・スクールとは、「仲間と共に楽しく活動しながら共に成長する学校」という意味を持っています。127年間校風として根付いたDNAが今後ますます彩り豊かに発展していきます。

2 岩倉スピリット

本校の教育目標は、「仲間とともに、主体的に学び、考え、創造し、行動できる人物に成長する」ことで、これを「岩倉スピリット」と呼んでいます。このスピリットは現代社会を力強く生き抜くために必要な精神です。本校での高校生活を通して、「学ぶ喜び」に目覚め、自らを鍛える実践を通してこの精神を身に付けていくことが重要です。入学から3年後に、自分なりの「岩倉スピリット」とは何かを自分の言葉で語ることができるように大きく成長することが期待されています。

3 土曜プログラム

岩倉スピリットを身に付ける具体的実践の場の1つが「土曜プログラム」です。土曜日をもっとアクティブに活用することで、自らの成長を加速させることを目的としており、集中講座や自学自習支援をはじめ、個別最適な学びのプログラム、弱点克服のための授業、部活動への熱心な取り組みなどが行われています。

昨年度は、『魂に響く話を聴く会』と題し、“現状に満足していない”、“何かモヤモヤしていてきっかけが欲しい”、“もっと自分自身に成長を促したい”といった思いを抱えている生徒の魂に響くような話

を提供する特別講演を企画しました。分野を問わず多様なキャリアを持つ情熱的な講演者をお招きし、ご自身の経験に基づいた、生徒の魂を揺さぶるようなお話を聴かせていただきました。

今年度は、「ワクワク探究ラボ」という新たなプログラムを立ち上げました。これは、本校の理科教員から提案された修学旅行事前学習（理科編）として国立科学博物館での校外学習からスタートしたものです。「学ぶ、掘り下げる、広げる、自分で探す、積極的に行動する、ワクワクする、楽しむ」がコンセプトです。普段の授業や校外学習、土曜プログラム特別講演、修学旅行などの学校行事において、これら一つひとつの教育活動が単発的な学びで終わることのないように、繋がりをもった学びが実現するようにプランニングされています。また、生徒にとっては、学ぶきっかけが発展的に連続して訪れるようになっています。生徒がそのきっかけをつかみ、自らの探究心で次の学習へ主体的に進んでいくことが期待されています。

これらのプログラムや講演会への参加は希望制としており、対象は全校生徒、保護者、教職員です。強制されることなく、自分の意思で参加します（教員から勧めることはあります）。本校のオープンスペースとなっているカフェテリアを会場として、参加していない生徒も後方で食事や自習で使うことができるように開放し、講演中の通行も可能としました。このようにして、新たな学ぶスタイルが徐々に浸透してきています。そして、生徒や教員の新たな発想やチャレンジが創出される文化が芽生え始めました。



【実践報告】

工業高校改革 Tokyo P-TECH の取組みについて

東京都立府中工科高等学校 校長 高野 学



1 はじめに

本校は、昭和 37 年東京都府中市に設置された全日制工業科高校です。開校以来、1 万人以上の卒業生を輩出し地域産業の発展に貢献してきました。

2 東京都における工業高校改革

近年、急速なデジタル技術の発達や未曾有の感染症蔓延などから、変化が激しい先行き不透明な時代と言われ、社会が求める人材は大きく変化し、高校教育の在り方についても転換が求められました。東京都教育委員会は、令和 4 年 2 月に「Next Kogyo START Project」を立ち上げ、今の時代のニーズに合った魅力ある工業高校の実現に向けて動き出しました。その一環で、東京都の全ての工業高校の名称は、令和 5 年度から工科高校に変わり、本校においては、生涯にわたって社会で活躍する IT 人材を育成することを目的とした P-TECH 事業をスタートさせました。

3 Tokyo P-TECH 事業

Tokyo P-TECH は、都立高校と専門学校の一貫した 5 年間で、企業と連携してデジタル人材の育成を図る教育プログラムです。協力企業による講話、メンタリング（企業社員等による生徒へのキャリア相談）、体験授業、ネットワークやプログラミングなどの授業を行います。実施に当たっては東京都教育委員会が設置する Tokyo P-TECH コンソーシアム（連携専門学校、参加企業、都立高校、東京都教育委員会）で、育てるべき資質能力やそのためのカリキュラム、年間活動計画等が審議されます。本校が連携する専門学校は日本工学院八王子専門学校で、連携する企業がキンドリルジャパン（株）、（株）セールスフォースジャパン、一般社団法人東京都情報産業協会です。そして P-TECH 事業運営補助を NTT 東日本にお願いしています。

4 本格的スタート 2 年目

Tokyo P-TECH では、専門学校 2 年間と高校 3 年間で 5 年間のロードマップが描かれています。



高校 1 年生では、「社会に求められる人材」や「社会の課題を IT 技術で解決に導く実践例」などをテーマに連携企業社員による講話を行ったり、

日本工学院専門学校を訪問し「最新のデジタル技術」に触れたりすることで、生徒の知的好奇心を刺激し、社会を知り視野を広げ、学ぶ意欲を高めます。

2 年生では、企業の方による講話や、専門学校訪問などを引き続き行い専門的な知識を身に付け、企業の方々とのメンタリングを複数回行い、自らの興味関心をさらに深めさせ、キャリアデザインを促します。

3 年生では、課題研究で社会の課題に関連付けた探究活動を行います。その際、企業の方や専門学校の先生方から指導助言をいただき、学びを深化させ上級学校の学びに繋がります。



5 今後の取組み

Tokyo P-TECH 取組み後の生徒アンケートでは、「楽しかった、ためになった、今後に生かしたい、もっと知りたくなった」など肯定的で前向きな意見が多く散見されます。Tokyo P-TECH のねらいである、「困難な課題や新たな課題に対して好奇心や興味関心をもって、自分で考え自らキャリアデザインを描き、それに向かって学び続ける力を身に付ける」ことに近づいていると思われます。今後、コンソーシアムでプログラムをブラッシュアップさせ、年間授業計画に落とし込み、持続可能な取組みにすることが重要であると考えています。

在校生からのメッセージ INFINITY

東京都立大島海洋国際高等学校
海洋国際科 3年 高橋 優太

『伊豆大島』、『寮生活』、『都内唯一の水産高校』が特徴のこの学校は、船舶運航系、海洋産業系、海洋生物系、海洋探究系の4つの類系で学ぶことができます。その中でも、私は海洋生物系で養殖やアクアリウムを通し、生物飼育の現場で戦力になれるよう学んでいます。

現在は、島内の方々の協力を得ながら様々な取り組みを行っていて、昨年度に種苗導入したエゾアワビの養殖で、増肉係数と餌料効率を高める方法に試行錯誤しています。また、今年度からはニジマスの海水馴致にチャレンジしています。ニジマスの卵をふ化させ、幼魚まで成長しました。近頃は餌を多く食べるようになり、餌をあげすぎてしまう事があります。上記の授業を行っている本校の養殖施設は、循環型陸上養殖施設であり、脱窒装置がついていませんが、アワビの死亡率は1割以下を誇っています。

本校には修学旅行がありません。しかし、一大イベントの「乗船実習」があります。本校が所有している実習船「大島丸」を使い、360度どこを見ても何もなく、水平線に囲まれながら日本各地に行きます。

航空機を使う学校もありますが、私たちは船で行き時間がかかる分、「寄港地についたら何をしようか」と期待が胸を膨らせます。航空機等では味わうことができない、地に足をつけた時の感動を味わうことができます。これが私たちだけの青春です。

私の夢はここで得た学びを活かし、私が養殖した海産物で日本の食卓を豊かに支えて続けていくことです。そのためにも、さらに知識をつけ、陸上と海面養殖のどちらの企業にも勤めた後に、私と同じ志を持つ人を後押しするために水産科の教員として私が得た知識や技術を次の世代に伝えていけるような存在になりたいです。



在校生からのメッセージ INFINITY

大森学園高等学校
工業科電気技術コース 3年 中村 拓人

私は将来自動車の開発・製造の仕事に就こうと考えています。そのために、大森学園高校工業科の電気技術コースで、日々勉学に励んでいます。

なぜ電気技術コースかというと、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて2035年にはガソリン車の新車販売が禁止になる事を知ったからです。私の中で自動車はエンジン音なども含めて良さだと思っていますが、電気自動車などは従来のエンジン音がありません。そこで私は電気自動車でもガソリン車のような乗り心地、エンジン音が鳴る電気自動車を開発したいと思ったのです。そのために高校から電気に関する事を学ぶ決意をし、都内で資格取得がトップクラスに強く、校風も明るかった大森学園に入学しました。

そんな大森学園では、2年生で電気技術・機械技術・情報技術と3つのコースに分かれます。電気技術コースでは電気工事士など、機械技術コースではガス溶

接やアーク溶接など、情報技術コースでは工事担任者をメインに様々な資格勉強をしていきます。その他の資格でも自分が受けたいと思いを伝えると放課後、国家資格などを取得できるように先生が親身になって協力してくれます。私の夢である開発・製造の仕事に就くために今、高校生としてできる事を可能な限り実践していきたいと思います。



卒業生からのメッセージ BEYOND

東京都立桐ヶ丘高等学校 令和5年度卒業
日本リハビリテーション専門学校 作業療法学科 小山 大貴

私は今、作業療法士になるために専門学校に通っています。専門的な知識の学習は難しく、わからないことばかりで大変です。以前の私ならあきらめてしまっていたかもしれませんが、しかし、何とかついていくことができています。

それは、桐ヶ丘高校での経験があったからです。チャレンジスクールに入ったからには、何事にも挑戦しようという気持ちで3年間を過ごしてきました。まず、生徒会に入りました。もちろん、すべてがうまくいった訳ではありません。生徒会のメンバーとの意見のぶつかりあい、伝達ミスなどの失敗も多くありました。けれど、仲間と支えあい、行事を成功させるたびに成長を感じることができました。だからこそ、つらい今も乗り越えられると思っています。また、桐ヶ丘高校



は総合学科なので幅広い分野について学べる環境がありました。福祉と情報・ビジネスに興味をもち、授業を履修したことが今につながっています。グローバルデザインや子供の発達については勉強しておいて良かったと感じています。情報の授業も大切だったと実感しています。苦手だったので最初は避けていたのですが、担任の先生に「社会に出たらパソコンは使えたほうがいい」と聞き、挑戦することを決めました。基礎から始めて、だんだんと使えるようになると積極的になれました。先生に質問したり、授業でまだやっていないところも自分で勉強したりして、今ではパソコンが得意です。専門学校でレポートやプレゼンテーションを作ることもあるので、昔のままだったら困っていたと思います。

このように、桐ヶ丘高校で様々なことに挑戦し、幅広い分野について学べたおかげで、今の私がいます。皆さんも挑戦してみてください。些細なことでも構いません。応援しています。

卒業生からのメッセージ BEYOND

東京都立第四商業高等学校 令和5年度卒業
㈱関電工 東京営業本部 東京支店 南部支社 事務チーム 肥沼 真希登

私は卒業後の進路で就職を選択するため、就職に手厚いサポートのある第四商業に入学しました。始めから目的が決まっており、その幅を広げるために高校三年間様々な「初めて」に挑戦しました。

高校で簿記という科目に触れて初めは分からないことが多く、用語の意味さえ分からないという状況でしたが、今は分からなくてもいつか分かるようになると信じて努力を続けることで、日商簿記検定や全商簿記検定の資格を取得することが出来ました。

2年生になり、高校生活に慣れていく中で授業を受けるだけではなく、様々な行事に積極的に参加することが大切だと思うようになりました。簿記のほかにビジネス科目にも力を入れている学校でしたので、他校とのプレゼンテーションの発表会などにも自ら手を挙げて参加をし、初めは拙い発表でしたが、徐々に発表や課題に対しての調査のコツが深まり、最終的に自らの成長に繋ぐことが出来ました。

入社してまだ2年目ですが、高校生活で学んだものや経験した内容を活用して日々、業務に励んでおります。何事にも恐れず楽しんで行うチャレンジ精神を忘れずに初志貫徹で今後も頑張っていきたいと思います。

これから新しいことを行っていく機会が色々あると思います。そのような中で「初めて」であることを生かして積極的に何事にも向き合ってみてください。自分で行った経験は何事にも代えられない宝です！挑戦する気持ちを大切にしてください！



新会員校の紹介

学校法人鬼木医療学園 国際鍼灸専門学校 理事長 鬼木緑 校長 藤本武久
〒124-0012 東京都葛飾区立石 6-36-7 TEL. 03-3693-1214

国際鍼灸専門学校は、厚生労働大臣認定のあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の養成施設であり、学校教育法による専門学校（医療専門課程）です。1957年の創立以来、これまでに5,000人を超える卒業生を輩出してきました。

◆あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師は看護師や理学療法士等と同じように人体を扱う職業として法律によって定められた医療系の国家資格で、独立開業ができる数少ない資格のひとつです。都内であん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の3つの国家資格を取れる専門学校は6校しかなく、その中でも本校は最も負担を抑えた学費で学ぶことができます。

◆臨床実習の充実

本校は附属治療所を併設しており、教員1名

に対し学生2名の個別指導で臨床力に力を入れています。また、東京大学医学部附属病院、筑波大学、千葉大学での外部臨床実習を組み入れており、業界最先端で質の高い専門教育を行っています。

◆国家試験合格率

全国屈指の国家試験合格率を維持しており、豊富な求人数と高い就職率を誇っています。本校は文部科学省の「職業実践専門課程」、「高等教育の修学支援新制度対象校」として認定されています。



新会員校の紹介

学校法人小倉学園 東京自動車大学校 理事長 小倉基義 校長 小倉基宏
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3 TEL. 0120-02-2535

学校法人小倉学園東京自動車大学校は1990年に自動車整備技術を学ぶ専門学校として開校し、自動車整備科「1級整備士コース」および「2級整備士コース」、板金や塗装技術を学ぶ「ボディクラフト科」を設置しています。

本校は、礼儀、責任、融和を校訓とし、技術に優れたカーエンジニアの育成と健全な人格の形成を目指し日々の教育を行っています。

自動車整備技術の習得のために、21メーカー67車種205台の実習車両をはじめ、車検ライン、4輪アライメント



テストなどの最新の自動車整備機器・設備を完備しており、自動車整備士国家資格（1級・2級・車体）に加え

最大32の各種資格の取得と、本校卒業と同時に大学卒

業資格もとれるWスクール制度（産業能率大学）もあります。

就職率は、毎年100%を達成しており、主な就職先は、自動車メーカー（研究・開発）、メーカー系自動車販売会社、その他自動車関連企業です。自動車整備士国家試験全員合格、就職内定100%を目標として、教職員が一丸となって万全のサポートを行っています。



令和 6 年度葛飾区産業教育懇談会を開催

令和 6 年 5 月 10 日(金)「テクノプラザかつしか」を会場として、第 3 回葛飾区産業教育懇談会を開催しました。全体会では東京商工会議所葛飾支部での取り組みなどが紹介され、分科会では「東京商工会議所葛飾支部の取り組み」と「葛飾区の産業を担う人材を育成するにはどうしたらよいか」をテーマに意見交換を行い、そのことについて分科会ごとに発表していただきました。

各分科会では、参加者の皆様から自己紹介して頂いた後に、意見交換会に入りました。

まず、先ほどの全体会で東京商工会議所葛飾支部の取り組みをご発表頂きましたことについてのご感想やご意見を頂きました。

この流れを受け、「葛飾区の産業を担う人材を育成するにはどうしたらよいか」について活発なご意見を頂き、実のある分科会となりました。



産学懇談会(第 1 回)を赤羽北桜高校で開催

7 月 4 日(木)、都立赤羽北桜高等学校を会場に、本年度第 1 回の産学懇談会を開催しました。都立赤羽北桜高等学校は、令和 3 年 4 月に開校した新しい専門高校です。家庭学科(保育・栄養科、調理科)と福祉学科(介護福祉科)の 2 学科 3 科を設置しています。



入学した生徒が専門高校で学んだことを最大限に生かし、「調理師免許」や「介護福祉士」の国家試験受験資格を取得するなどエキスパートとして社会で貢献できる人材となるよう、「スペシャリストの育成」、「探究活動の充実」、「地域との連携」の 3 つのコンセプトに基づき、様々な教育活動に取り組んでいる高校です。

開会の挨拶を西澤宏繁会長、会場校金澤正美校長、長谷克己都立学校教育部高等学校教育課ものづくり推進担当課長より頂き、その後、校内見学(施設・設備等)を行いました。

校内見学では、浦島真由美副校長の説明により保育実習室、介護実習室、調理実習室などを見ることで様々な発見やそれぞれの施設・設備の特徴について知ることができ、家庭・福祉分野についての考えを深めることができました。見学後、金澤正美校長からは学校概要や特色ある教育活動について詳しく説明して頂きました。



その後、懇談に移り、参加者から施設見学・学校説明に対する質問・感想が述べられました。また、家庭学科と福祉学科の現状と課題、教育活動への期待につ



いて、意見交換をし、有意義な機会となりました。

都立赤羽北桜高等学校の皆様には大変お世話

になりました。心より感謝申し上げます。

令和6年度 総会・講演会 報告

【総会】

令和6年度総会を6月25日(火)全商会館において、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催しました。



総会の開会にあたり、西澤宏繁会長、常任理事の村西紀章都立学校教育部長から挨拶がありました。続いて、来賓の公益財団法人産業教育振興中央会専務理事の岩井宏様、東京都公立高等学校長協会会長の加藤瑞樹様(都立稔ヶ丘高等学校統括校長)、東京都中学校長会会長の堀越勉様(千代田区立麹町中学校長)から御挨拶を頂きました。

次に、事務局から3件の報告、6件の議案を提案し、審議の結果、全議案とも原案どおり承認されました。

なお、今年度の産業界会員功労者(永年会員)表彰は国光施設工業株式会社、東京商工会議所の2社でした。

今年度の役員を以下に紹介します。

- 会 長 西澤 宏繁(留任)
(ForeVision 株式会社取締役 監査等委員会委員長)
- 副 会 長 金子 昌男(留任)
(株式会社カナック企画相談役)
- 副 会 長 小林 治彦(留任)
(東京商工会議所常務理事)
- 副 会 長 池上 信幸(留任)
(東京都立町田工科高等学校長)
- 理 事 長 浜 佳葉子(留任)
(東京都教育委員会教育長)
- 常任理事 村西 紀章(留任)
(東京都教育庁都立学校教育部長)
- 常任理事 奥富 洋一(新任)
(東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長)

常任理事 長谷 克己(留任)

(東京都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長)

常任監事 坂元 郁子(留任)

(東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課統括課長代理)

【講演会】

総会終了後、引き続き講演会を開催しました。株式会社価値総合研究所代表取締役会長 栗原美津枝氏を講師として、「学校現場の課題と企業の貢献」という演題で行われました。講演内容は、3月上旬発行予定の会誌「東京の産業教育」第62号にて紹介いたします。

令和6年度「作文コンクール」作品募集

- 主 催 東京都産業教育振興会
- 後 援 東京商工会議所
- 応募資格 会員校に在籍する生徒・学生
- 応募締切 9月13日(金)
- 表 彰 入選者には表彰式(12月20日(金)東京商工会議所)において、本会より賞状並びに賞品を授与します。選外者にも参加賞を贈呈します。
- ※詳しくは、ホームページを御覧ください。

事務局より

令和6年度「会報」第166号をお届けいたします。発行に際し、御協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。皆様からの御感想、御意見などをお寄せください。

発行  東京都産業教育振興会

住所 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部
高等学校教育課内

電話 03-5320-6729

ホームページ <https://www.tosanshin.org/>

印刷  教育庁サポートオフィス
教育庁サポートオフィス
パレット